

図書館だより 3月号

2023年3月14日発行
阿波高校図書委員会

学年末考査も終わりましたね。
少し時間にゆとりが感じられる今こそ！
新しい本と出会う時です！
休み時間に、放課後に、ぜひご来館くださいね。
『その本は』の「かすかに存在する可能性を信じて」という言葉のように、
皆さんの読書のお手伝いに少しでもなれていると信じて、
阿波高図書館＆図書委員会は来年度もがんばります！



○1年生より・・・「心に残った一文」特集！

1年生の皆さんが「心に残った一文」を紹介してくれました。気になる一文はあるでしょうか？どのような場面でこれらの言葉は登場するのか？ぜひ本を手にとってみてくださいね。（提出された文面のままなので、オリジナルと漢字などの表記が違っていたらごめんなさい。）

「きっと、泣いていても答えは見つからない。」 『アンと青春』 坂本 司

「ありのまま生きているように見える人も、そんな強い自分であるために、どこかで無理をしている。」 『夜明けの全て』 瀬尾まいこ

「誰がなんと言おうとぼくたちは自らを生きる権利があるんです。」 『汝、星の如く』 凧良ゆう

「歯ブラシは一ヶ月以上同じものを使っていたら、バイ菌で磨いているのも同然です。」 『歯は磨いてはいけない』 森 昭

「その瞬間瞬間にカレが感じた感情は、きっとどれもその通りで、正しいのだ。」 『かがみの孤城』 辻村深月

「ひとというのは最初こそ貰う側やけど、いずれは与える側にならないかん。」 『52ヘルツのクジラたち』 町田そのこ

「どんなに必死に自分の考えを訴えても、ちっとも分かってもらえなかったりする。おんなじ言葉を使っても、それまでの環境とか生き方とかが違うと、まるで外国語みたいにつたわらないこともある。」 『あの星が降る丘で、君とまた出会いたい』 汐見夏衛

「世界中にある多種多様な言語の中で、唯一のユニバーサル・ランゲージこそ数学です。」 『面白くて眠れなくなる数学BEST』 桜井 進

「自分で自分の限界を決めない。」 『負けない自分になるための32のリーダーの習慣』 澤 穂希

「生き方に答えはない。」 『学校に行きたくない君へ』 棚田正一

「人生はほんの一瞬で大きく変わる。」 『桜のような僕の恋人』 宇山佳佑

「でも、恋をすると世界が綺麗に見える。」 『水神様がお呼びです』 佐々木匙

「有利になったからといって、気を緩めてはいけない。サッカーも、そして、仕事も。」 『キャプテン翼勝利学』 深川峻太郎

「誰かを励まし続けるのって、自分がかんばり続けるのと同じくらい大変なんだよ。」 『青空エール』 下川香苗

「そんなボトルに手紙を入れて海に流すようなことを、人間は本という形に託して、ずっと作り続けてきたのである。小さい小さい、でもかすかに存在する可能性を信じて」 『その本は』 又吉直樹・ヨシタケシンスケ

○15HR図書委員金井のオススメ！

作品名：隻眼の少女

作 者：麻耶雄嵩



この本は連続殺人事件に巻き込まれた主人公が事件の謎を隻眼の少女探偵・みかげとともに解き明かしていく本格ミステリー小説です。不可解な事件の裏にある真相を読者自身も考えながら探偵の推理とともに読み解いていくことができます。事件を解決していく中での二人の関係の変化やその先にある意表を突くストーリーなどとても面白い内容です。

○15HR図書委員大塚のオススメ！

作品名：赤でもなく青でもなく 夕焼け檸檬の文化祭

作 者：丸井とまと まかろんK



この本は高校生で同じクラスの男女の物語です。2人は全然話したことがなかったのに、文化祭のリーダーと副リーダーを任せられます。また話しているうちに、お互いが同じような秘密を抱えていることを知ります。そして2人はお互いやクラスの間などと協力して文化祭の準備をしながら成長していきます。自分達と同じ高校生の物語なので共感しやすいところも多く、心に残る言葉もたくさんあります。ぜひ読んでみてください！

